

仕事と生活の調和に関する意識調査（ダイジェスト版）

千葉市女性センターでは、「仕事と生活の調和に関する意識調査」を実施しました。

この調査は、男女共同参画社会の実現のために、仕事と家庭の両立に関する市民の意識と実態を探り、今後の施策に反映させていくことを目的としています。

* 調査の対象	千葉市にお住まいの25歳以上45歳未満の男女各1,500人（無作為抽出）
* 調査の方法	郵送配布—郵送回収法
* 調査の期間	平成19年10月2日～平成19年10月18日
* 回収の状況	有効回答数：1,133件（有効回答率：37.8%）

注1) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

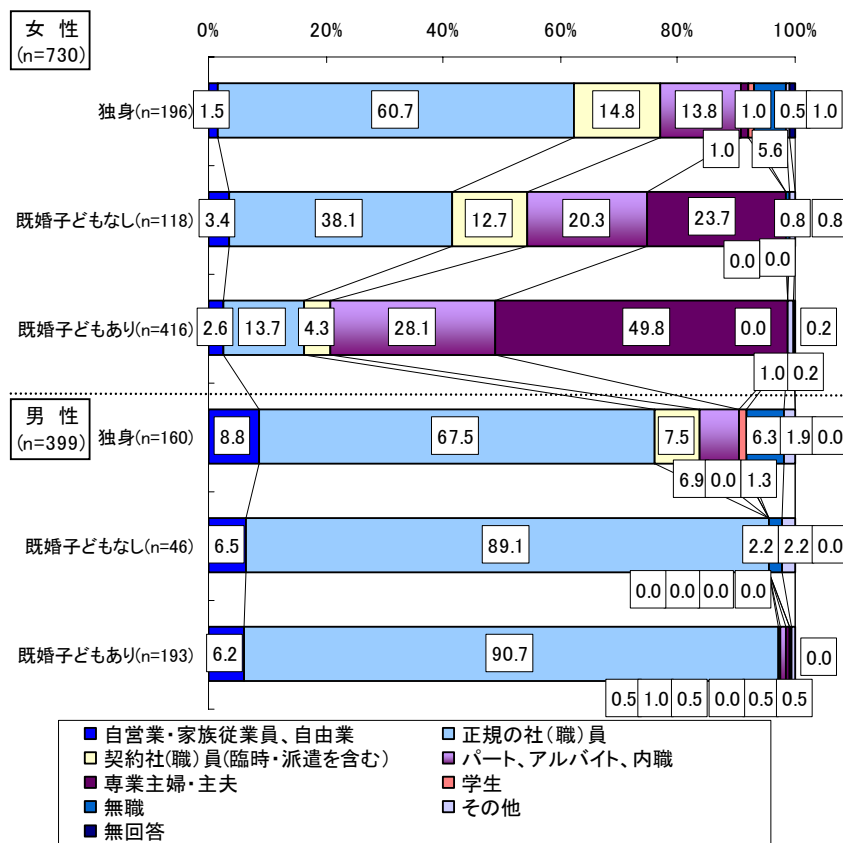
注2) グラフは、内容に応じて、抜粋したものを掲載しています。

1. 働くことについて

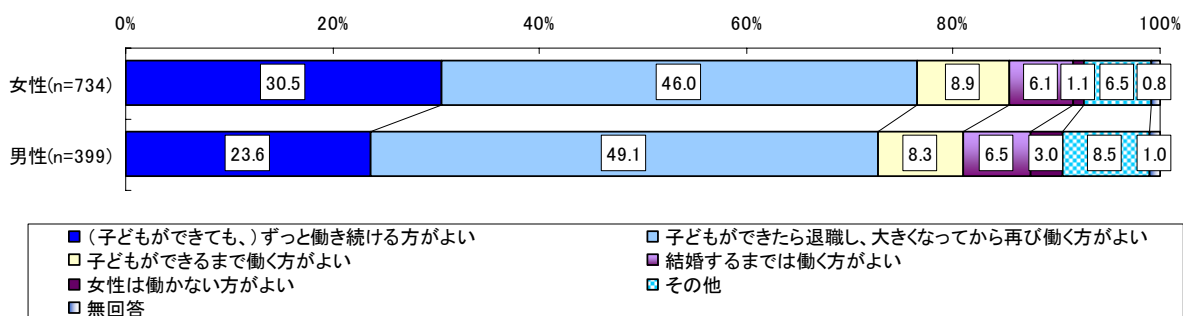
■現在の職業をみると、男性は結婚や子どもの有無にかかわらず「正規の社（職）員」が最も高くなっています。一方、女性については「独身」では「正規の社（職）員」（60.7%）、「既婚子どもなし」では「正規の社（職）員」（38.1%）、「既婚子どもあり」では「専業主婦」（49.8%）がそれぞれ高く、結婚や子供の有無によって働き方が大きく変化しています。

■女性が働くことについての意識をみると、男女ともに「子どもができたら退職し、大きくなってから再び働く方がよい」（女性46.0%、男性49.1%）が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」（女性30.5%、男性23.6%）ですが、女性の方が男性よりもやや高くなっています。

図表1 回答者の職業

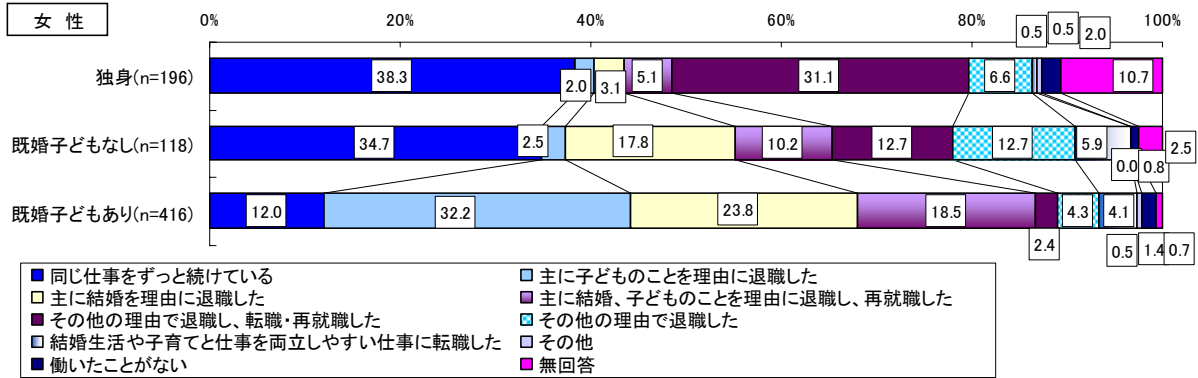


図表2 女性が働くことについて



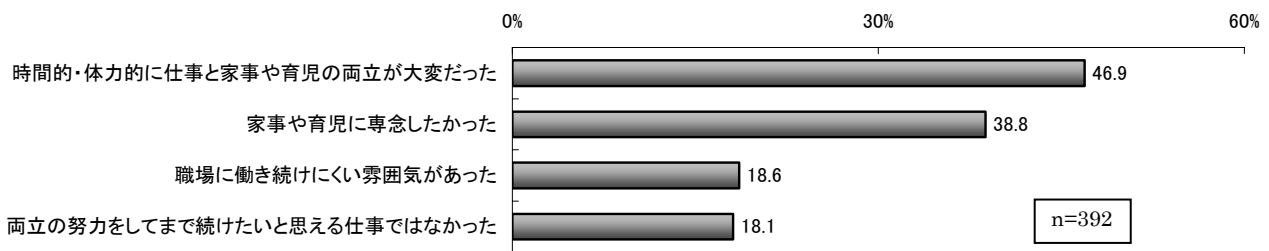
■実際の働き方をみると、女性については、「独身」と「既婚子どもなし」では「同じ仕事をずっと続けている」(順に38.3%、34.7%)が最も高くなっています。「既婚子どもあり」では、「主に子どものことを理由に退職した」(32.2%)が最も高く、結婚や子どものことで職場を離れた経験がある人を合計すると、74.5%でした。

図表3 女性の実際の働き方



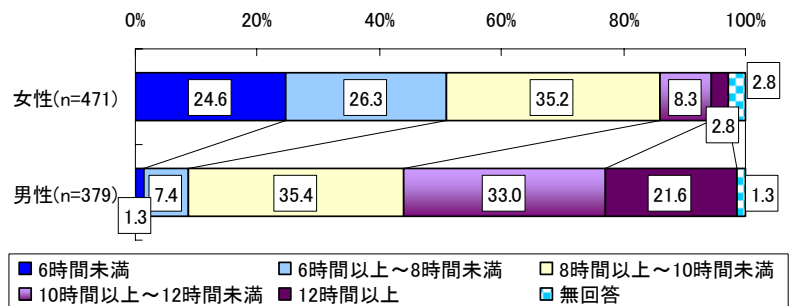
■結婚や子どものことで仕事を退職・転職した主な理由は、「時間的・体力的に仕事と家事や育児の両立が大変だった」が最も高く46.9%でした。

図表4 結婚や子どものことで退職・転職した理由



図表5 仕事従事時間

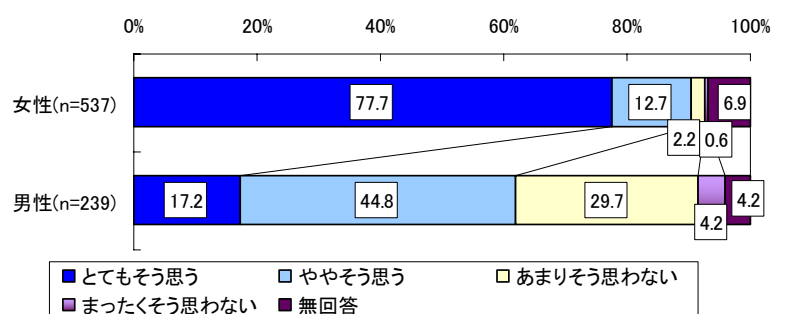
■仕事に従事している時間は、男女ともに「8時間以上10時間未満」(女性35.2%、男性35.4%)が最も高くなっていますが、男性では、「10時間以上12時間未満」(33.0%)も3割を超えています。



2. 家庭生活について

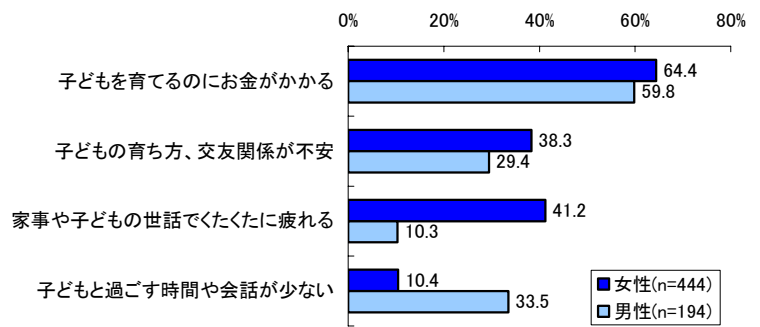
■家庭で家事や育児に積極的に関わっているかについては、男女間で大きな差が見られ、共働きか片働きかによらずその傾向は変わりませんでした。

図表6 家事や育児に積極的に関わっているか



■子育ての不安や悩みについては、男女ともに「子どもを育てるのにお金がかかる」(女性 64.4%、男性 59.8%) が最も高くなっています。次いで、女性では「家事や子どもの世話でくたくたに疲れる」(41.2%)、男性では「子どもと過ごす時間や会話が少ない」(33.5%) となっています。

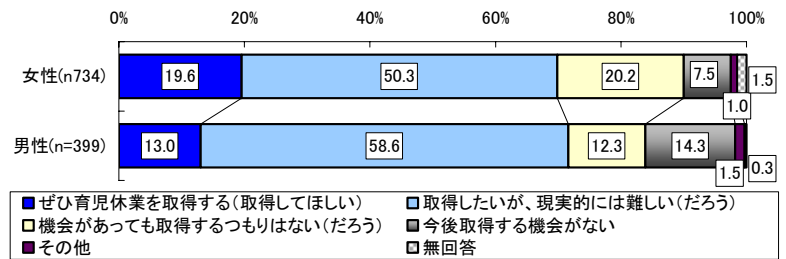
図表7 子育ての不安や悩み



3. 仕事と生活の両立について

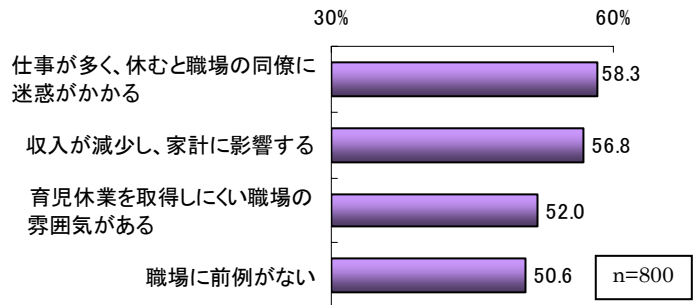
■男性が育児休業を取得することについては、男女ともに「取得したいが、現実的には難しい(だろう)」(女性 50.3%、男性 58.6%) が半数以上を占めました。

図表8 男性の育児休業取得について



■育児休業を取得するつもりはない・するのが難しいとする理由は、「仕事が多く、休むと職場の同僚に迷惑がかかる」(58.3%) などが高くなっています。

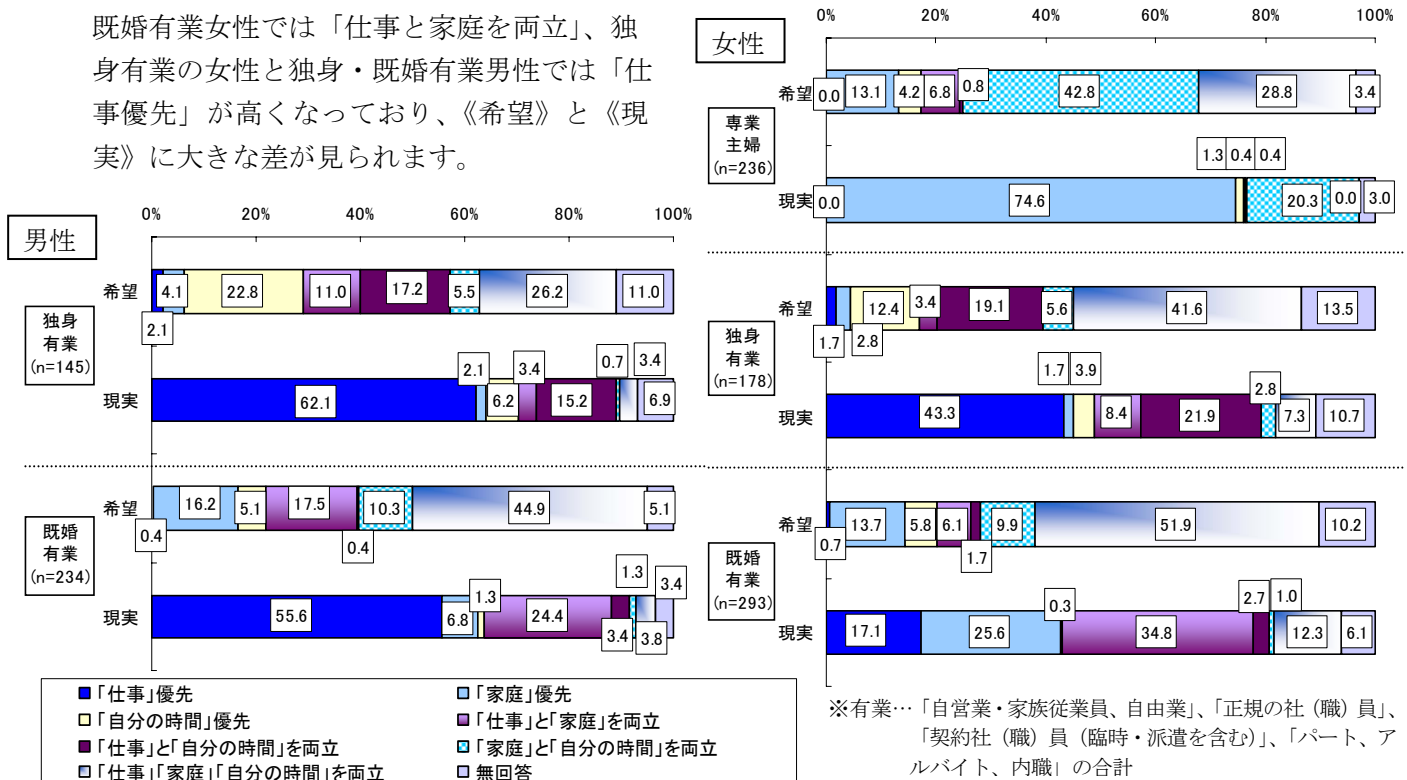
図表9 育児休業を取得するつもりはない・するのが難しい理由



■仕事、家庭、自分の時間の両立についての《希望》は、専業主婦では、「家庭と自分の時間を両立」、有業の回答者では性別・結婚の有無にかかわらず「仕事、家庭、自分の時間の両立」が最も高くなっています。

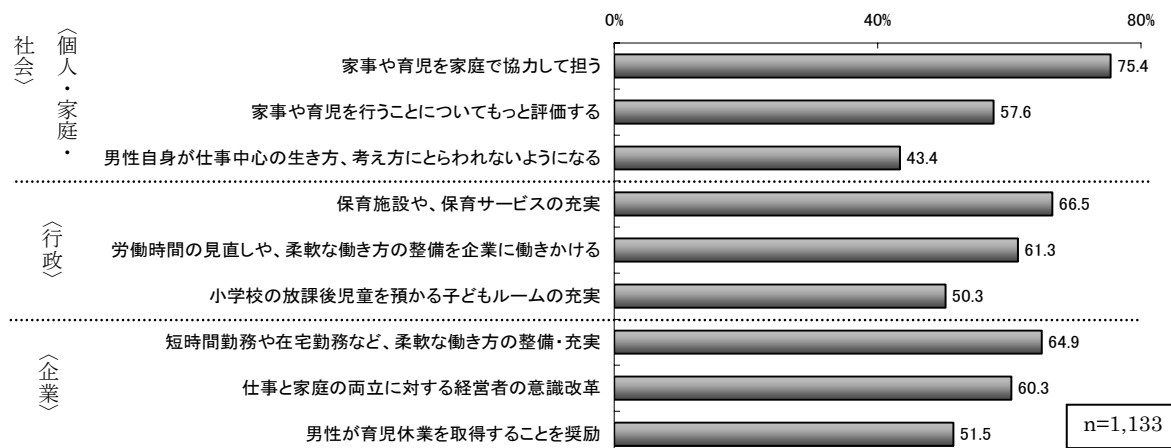
しかし、《現実》では専業主婦は「家庭優先」、既婚有業女性では「仕事と家庭を両立」、独身有業の女性と独身・既婚有業男性では「仕事優先」が高くなっており、《希望》と《現実》に大きな差が見られます。

図表10 仕事、家庭、自分の時間の両立



■仕事と家庭生活の両立のために必要なことは、〈個人・家庭・社会〉では、「家事や育児を家庭で協力して担う」(75.4%)が、〈行政〉では、「保育施設や、保育サービスの充実」(66.5%)が、〈企業〉では、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方の整備・充実」(64.9%)などが高くなっています。

図表 11 仕事と家庭生活の両立に必要なこと



今後に向けて

今回、千葉市における仕事と生活の調和に関する調査を行ったところ、女性は結婚や出産などで一度退職し、その後再度働くという一時中断型の働き方が望まれ、また実際に出産などで退職する女性が多く、結婚後は共働きか片働きかにかかわらず家事や育児などの大きな家庭的責任を負っていました。その一方男性は、家事・育児にもっと関わりたいという希望があるものの、正規の社（職）員を中心として長時間労働に従事し、男性が家事・育児に参加しやすい職場環境は整っていないという、いわゆる「男性は仕事、女性は家庭」、あるいは「男性は仕事、女性は仕事も家庭も」という実態が浮き彫りになりました。また、生活の中で「仕事」、「家庭」、「自分の時間」をバランスよく両立したいという希望を中心に、両立志向が強いことがわかりましたが、現実との間には大きな差が見られました。さらに、「家庭」に満足している人ほど「仕事」や「自分の時間」に満足し、「自分の時間」に満足している人ほど「家庭」に満足しているという結果でした。

今回の調査結果より、「仕事」、「家庭」、「自分の時間」の調和のとれた生活を、個々人の希望するバランスで実現するためには、結婚や子育てなどに応じて働き方を選択できる環境の整備、労働時間の見直しを始めとした仕事と家庭の両立支援の充実、また、子育て支援の充実などを目指し、市民や企業への情報提供や意識啓発を行うことが必要であると言えます。固定的な性別役割分担にとらわれずに、一人ひとりが希望する形で仕事と生活のバランスを実現できることは、活力ある男女共同参画社会の基盤となるでしょう。

発行日： 平成 20 年 3 月
 発行： 千葉市市民局生活文化部男女共同参画課
 千葉市女性センター 電話 043(209)8771

※なお、本調査報告書は千葉市女性センター及び市内図書館にございますので、詳しくはそちらをご覧ください。